

孤立集落「早く道路復旧を」

泥の除去、水不足…爪痕残る

記録的豪雨で土砂崩れや住家浸水などの被害を受けた奄美大島南部豪雨災害は6日で5日目を迎えた。寸断されていた道路やライフラインの復旧は急ピッチで進む。一方、高齢者も浸水した家屋の泥の除去や後片付けに追われ、被災地の一角には撤去作業で集まったがれきが高く積まれたまま。この日は被災後初めての日曜日となり、甚大な被害を受けた瀬戸内町には内外から多くのボランティアらが駆け付け、家屋の清掃やごみの運搬などに汗を流した。被災地を連日訪ねているが、豪雨の爪痕は至る所にあり、復旧・復興の長い道のりを思わせた。

(奄美大島南部豪雨取材班)

瀬戸内町伊須から県道 相当の時間がかかる見通
蘇刈古仁屋線に向かっ
た。嘉鉄―蘇刈へとつな
ぐ三差路まで1・8キロの
道路は幅が約5・1メートルだ
が、三差路までの土砂崩
れ箇所は大小合わせて17
カ所もあり、うち最も狭
い道幅は2・5メートル。交通
量は急増しており、極め
て危険な状態にある。

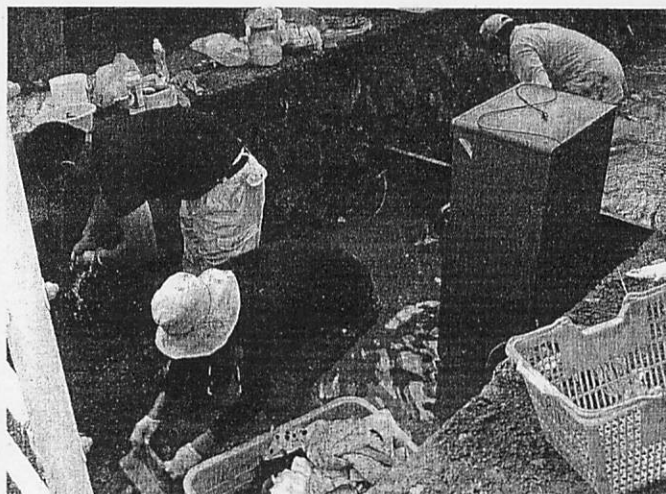
蘇刈古仁屋線で起きた
大規模崖崩れの規模は高
さ50メートル、幅80メートルに
よると、13日までは車両片
側通行とし、14日からは
全面通行止めとするが、
徒歩での通行は可能だ
という。崩落した土砂が大
量のため、全面開通には

大島南部豪雨

「被害の様子が伝えられ、困っている人たちが何とか助けたいと思う。自分ができることをやってみよう。将来は人の役に立つ仕事をしたい」

道路寸断で孤立状態が
続く加計呂麻島の嘉入、
須子茂、阿多地の3集落。
支援物資運搬や人の出入
りも海路頼みだが、浅瀬

のためスクリーパー船が陸に近付けないため小舟に移動しなければならず、利便性が悪い。新聞集配のため歩いて侵入りした元水孝則・須子茂区長(53)と共に、徒歩とバイクで嘉入集落(10世帯



泥で汚れた衣類などを川で洗う女性ボランティア＝6日、瀬戸内町蘇刈

15人)に入った。床上浸水8件、床下浸水1件の被害が出た嘉入。電気は3日夕方、水道・ガスが4日昼前に復旧。6日は古仁屋などから駆け付けた親族らに手伝われ、泥の搬出作業などに汗を流す住民の姿が見られた。

床上70センチまで水に漬かった前田龍也区長(61)宅。食器棚やテレビなどの家財が水に漬かった。軒下の泥出し作業を手伝っていた花田開君(10)は、4年生。2日は学校で被災し、俵の友を訴える声が相次いだ。

持病を持つ高齢者の薬が切れるなどの問題も始めている。

町によると、嘉入間の町道は複数箇所で路肩決壊などがあり復旧のめどが立たない状況。瀬武―阿多地間は今週中の開通を目指し作業が進んでいる。

「一日も早く道路を復旧してほしい―被災地の願いは痛切だ。」



床上約30センチまで浸水した家屋。友人らの手伝いで軒下の泥搬出が行われていた＝6日、同町嘉入